大分大学グローカル感染症研究センター
Research Center for GLOBAL and LOCAL
Infectious Diseases, Oita University

令和９年度（2027 年度）大分大学グローカル感染症研究センター
共同研究公募要項

令和８年（2026 年）１１月１６日
大分大学グローカル感染症研究センター

大分大学グローカル感染症研究センターは、感染症に関する全学的な研究力強化を戦略的に推進し、本学ひいては我が国の感染症研究基盤の強化・充実に資することを目的として、令和３年 10 月に全国共同利用型の研究施設として設置されました。

本センターでは、国内外の研究機関と連携しながら、病原微生物による感染病態の解析、病原体ゲノム解析、マイクロバイオーム研究、薬剤耐性（AMR）解析、臨床情報との統合解析等を推進し、本学が強みとする病原体や感染症に関する基礎研究から臨床・社会実装までの一連の領域をシームレスに連携させることにより、感染症に関する国際的かつ地域中核的な研究プラットフォームの構築を目指しています。 特に近年は消化器感染症・胃がん予防を重要な重点領域の一つと位置づけ、H. pylori を中心とする病原体ゲノム疫学、AMR、マイクロバイオーム、消化器内視鏡・内視鏡 AI、および国際フィールドを活用した学術研究を強化しています。この度、重点領域として「消化器感染症・胃がん予防」をテーマにしつつ、一般分野では「幅広い様々な感染症」に関する共同研究を、以下の要領で公募します。

１．公募概要

（１）募集区分

A)重点研究課題、B)一般研究課題及び C)シーズ発掘課題の 3 つの区分で募集を行います。いずれも、本学が有する有形・無形の資産を活用して各区分で定めるテーマに沿った研究課題を申請者（研究代表者）が設定し、研究代表者及び研究分担者が本センター担当教員と協力して実施する共同研究を募集します。

A)重点研究課題（申請上限額：130 万円/年・件）

本要項 5～13 ページに掲げる本センターの研究テーマについて、センターの教員と協力して実施するもの。特に、消化器感染症・胃がん予防に関連する研究、すなわちH. pylori を中心とする病原体ゲノム疫学、薬剤耐性（AMR）、マイクロバイオーム、消化器内視鏡・内視鏡 AI、国際フィールドを活用した研究、ならびにワンヘルス研究分野について、関連学術領域と本センターのプレゼンスを向上させ、全国共同利用型研究施設の柱となるような取り組みを重点研究課題として募集します。

研究期間：最長２年間（ただし、採択された場合でも、継続の可否を評価するため、１年ごとに継続申請を行っていただきます。このため、令和８年度に採択された課題については、本公募において、本公募要領に従い継続申請を行ってください。また、本公募で新規に採択された課題については、来年度の公募時に継続申請を行っていただく必要があります。）

※B)一般研究課題と同一の研究課題名及び研究内容での申請は認められません。

B)一般研究課題（申請上限額：70 万円/年・件）

本要項 5～13 ページに掲げる本センターの研究テーマについて、センターの教員と協力して実施するもの。特に、国際的・学術的に重要な研究領域で、本センターが戦略的に実施するものについては、重点的に支援します。

研究期間：最長２年間（ただし、採択された場合でも、継続の可否を評価するため、１年ごとに継続申請を行っていただきます。このため、令和８年度に採択された課題については、本公募において、本公募要領に従い継続申請を行ってください。また、本公募で新規

に採択された課題については、来年度の公募時に継続申請を行っていただく必要があります。）
※A)重点研究課題と同一の研究課題名及び研究内容での申請は認められません。

C)シーズ発掘課題（申請上限額：30 万円/年・件）
感染症に関する研究の裾野を広げ、共同研究を促進し、研究ネットワークの拡大を図るために、センター教員と連携し、新たな着想に基づく研究課題を実施するもの。
テーマについては各教員と相談し、決定してください。
研究期間：1 年間

※1　過年度からの継続課題の場合、過年度と同じ研究課題名での応募となります。
※2　採択された場合、配分額は原則として令和 10 年（2028 年）2 月末日までに執行してください。

（２）申請資格者
国内外の大学教員、その他研究機関に所属する研究者、これらと同等の研究能力を有すると認める者で、各研究課題に関する研究及び関連領域の研究に従事している者とします。特に若手研究者、女性研究者及び外国人研究者の PI としての参画を奨励します。なお、大学院生は代表者として応募することはできませんが、研究分担者として研究に参加することは可能です。また、学部生の研究参加については、別途相談してください。

（３）経費及び配分額への加算
申請対象となる経費の費目は、「旅費」及び「研究費」です。**採択された研究代表者への予算配分は行わず、本センターにおいて全ての経理を行います。**詳細は、別紙 1「大分大学グローカル感染症研究センター共同研究費の取扱いについて」を確認してください。
また、配分額について、研究代表者が若手（令和 9 年 4 月 1 日現在において 39 歳以下）の場合は、応募状況と審査結果を踏まえ、予算の範囲内で加算する予定です。
さらに、本センターの設備を利用して共同研究を実施する場合で、研究計画の内容が特に優れているものは、経費等を追加で支援する可能性があります。

２．応募方法

（１）申請書類
様式１　令和 9 年度（2027 年度）大分大学グローカル感染症研究センター共同研究課題申請書
様式２　令和 8 年度（2026 年度）大分大学グローカル感染症研究センター共同研究成果報告書（※）
※　令和 8 年度以前からの継続申請の場合及び令和 8 年度で継続課題が終了し令和 9 年度に新規申請を行う場合は、様式 2 の成果報告書を申請時点で作成の上、提出してください。最終版は、年度終了時（提出期限は令和 9 年 4 月 30 日）に提出してください。
経理様式１　検収権限委託に係る連絡票
本共同研究費で購入した物品等を、申請者の所属機関に直接納品するため、本学の規程に定める検収権限の委託手続が必要となります。（別紙 2 共同研究費執行手続の流れを確認してください。）共同研究の採択が決定次第、検収権限の委託に関して、本学の経理担当者から手続に関する連絡をしますので、事前に所属機関の検収担当部局について確認してください。（※）
※採択後早期に予算執行を可能とするために、申請時の提出をお願いしています。

様式1については、本センター担当教員と、研究課題、研究計画、必要経費、来学予定期間等について事前に十分に連携をとった上で作成してください。研究分担者にも事前に承諾を得ることが必要です。また、10.本センター担当教員との連携状況については、共同研究について合意した研究計画の記入を本センター担当教員に依頼してください。

全ての申請書類の提出に当たっては、PDFファイルに変換したものを添付の上、メールにて下記提出先に送付してください。(**※全体として４ページに収まるように作成してください。**)

担当より送信する受領確認メールを確認してください。

【申請書提出・問合せ先】
大分大学グローカル感染症研究センター
〒879-5593　大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地
E-mail: glocal@oita-u.ac.jp
Tel: 097-586-5444
当センターホームページ：https://www.oita-glocal.jp/

（2）申請書提出期限

令和9年1月18日（月）17：00必着　期限厳守

（3）審査

本センター共同研究委員会において、以下の項目について審査し、委員会の議を経て、センター長が採否を決定し、申請者に通知します。なお、審査においては、応募状況や課題の性質、継続課題の場合は前年度の成果報告内容、個々の計画への適切な配分額を審査し、採択額を決定するため、採択額が申請額より減額される場合があります。また、審査点数が著しく低い課題については不採択とします。

採否は、令和9年4月初旬までに申請者に通知する予定です。

採択された研究課題は、原則として、研究代表者の氏名と所属、研究課題名、研究成果など、本センターのホームページや年報などで公開します。

（参考）審査項目：①研究課題の学術的重要性・妥当性　②研究計画・方法の妥当性　③研究課題の独創性・革新性　④グローカル感染症研究センターの研究資源、設備、データ、国際フィールド、解析支援等の利活用　⑤国内外や地域への貢献　⑥経費の使途の妥当性

３．採択後の研究代表者の責務等

（1）研究成果報告

研究代表者は、令和9年度の研究成果について、研究期間終了後30日以内（最終期限：令和10年4月30日まで）に（様式2）共同研究成果報告書を提出してください。なお、本共同研究による成果は、原則として、本センターのホームページや年報等で公開します。また、評価のために成果報告会で発表していただく場合があります。

（2）本研究による成果の公表

本共同研究による成果は、原則として、本学担当教員との共著での学術論文掲載や学会発表（プロシーディングが有るもの）を行っていただきます。その際は、必ず本共同研究による旨を明記してください。また、必ず謝辞に下記の記載を行ってください。

【和文】　例1. 本研究（の一部）は大分大学グローカル感染症研究センターを利用して行った。(#####)
例2. 本研究（の一部）は大分大学グローカル感染症研究センターの支援により行った。(#####)

【英文】 例1. This work was (partly) conducted by the joint research program of

the Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases、 Oita University (#####)

例 2. This work was (partly) supported by the Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases、 Oita University(#####)

注）#には採択通知による課題番号を記入してください。

なお、研究代表者は、論文や学会などで本共同研究による成果を発表する場合は、First Author や Corresponding Author であるかどうかにかかわらず、掲載誌等にアクセプトされた時点で本センターにメール等で連絡の上、掲載・発表後、発表論文の別刷１部または PDF の提出をお願いします。

共同研究期間終了後、研究成果について追跡調査の連絡を行うことがあります。

また、提出された成果については、センター発行の年報、ホームページ等に掲載するほか、マスメディア等での広報を行う場合があります。広報に当たっては、事前に情報公開の可否について照会した上で調整します。

（３）人権の保護及び法令等の遵守

本共同研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取り組みを必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合は、講じる対策と措置を、(様式 1) 共同研究課題申請書の「9.人権の保護及び法令等の遵守への対応」に記載してください。個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む)、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

（４）知的財産の取扱いについて

本共同研究によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に本センター共同研究教員及び研究分担者に連絡してください。併せて、所属機関の知財担当部署に連絡してください。権利の持ち分、出願手続等については、協議の上決定します。

４．その他

（１）情報開示

受理した申請書は、外部から情報開示を求められた場合、個人の特定が可能な情報を除き、開示することがあります。研究遂行上、開示されたくない箇所(独創性を含む記載等)はアンダーライン等でマークして、申請書の余白にその旨記してください。開示時に考慮します。

（２）個人情報等

本募集に関して取得した個人情報等については、国立大学法人大分大学の個人情報保護ポリシー等に準拠し、その保護に努めます。ポリシー等の内容は、大分大学のウェブページ（https://www.oita-u.ac.jp/13joho/kojin-policy.html）を御覧ください。

本公募は、審査のための準備を早期に進め、できるだけ早く研究を開始できるようにするため、本学の令和９年度予算成立前に始めるものです。したがって、予算の状況によっては、内容に変更があり得ることをあらかじめ御承知おきください。

本センター教員の研究分野・研究活動等と連絡先

教員氏名	研究分野・研究テーマ・研究内容等
山岡　吉生 松本　昂 TEL: 097-586-5742 E-mail: yyamaoka@oita-u.ac.jp（山岡） tmatsumoto9@oita-u.ac.jp（松本）	研究分野：消化管感染症、分子疫学 研究テーマ：ピロリ菌感染症 キーワード：薬剤耐性菌、ピロリ菌ゲノム解析、消化管細菌叢ゲノム解析 研究内容： ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）などの病原性細菌には、よく知られた病原因子や薬剤耐性因子が存在しているが、未だ判明していない病原因子や薬剤耐性因子も存在している。これらを解明するためには、次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析が必要で、本学では、バクテリアゲノムワイド関連解析（GWAS）、さらには遺伝子欠損株作出などによる機能解析を行っている。また、現在世界約30か国から集めた胃粘膜検体やピロリ菌を保有しており、胃内の細菌叢の遺伝子の地域による違いがどのように病原性などに関与しているかを研究している。
西園　晃 八尋　隆明 君付　和範 TEL: 097-586-5712 E-mail: a24zono@oita-u.ac.jp（西園） takaaki-816@oita-u.ac.jp（八尋） k-kimitsuki@oita-u.ac.jp（君付）	研究分野：ウイルス学、感染免疫学、渡航医学 研究テーマ：新興・再興ウイルス感染 特に狂犬病に関する総合的研究 キーワード：狂犬病（病原性発現機構、宿主免疫応答の解析）、顧みられない熱帯病（NTDs）、渡航医学、狂犬病、神経向性ウイルス感染症 研究内容： １）狂犬病ウイルス、重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）など、ヒトと動物共通の新興・再興感染症ウイルスを中心とした診断法、ワクチン、治療法の開発や流行地域での疫学調査を実施している。野外株狂犬病ウイルスを用いた感染実験を行える国内ほぼ唯一の施設であり、特に *in vivo* イメージングによる中枢神経系における病原性発現機構の解析、感染時の宿主免疫応答に関する研究をライトシート蛍光顕微鏡を用いて行っている。 ２）海外渡航医療に関する臨床研究や新型コロナウイルス（COVID-19）の血清疫学調査を主とする臨床的研究も実施している。

衛藤　剛 TEL: 097-586-5843 E-mail: teto@oita-u.ac.jp	研究分野：ウイルス癌治療応用工学、消化器外科、低侵襲治療 研究テーマ：①制限増殖型ウイルスを用いた新規がん診断・治療開発、②腸内細菌叢と発がん・がん治療、③抗菌薬耐性ヘリコバクターピロリ菌に対する光線治療の開発 キーワード：制限増殖型ウイルス、腸内細菌叢、抗菌薬耐性ヘリコバクターピロリ菌、光線治療、低侵襲治療 研究内容： １）制限増殖型ウイルスはがん細胞で選択的に増殖し細胞溶解を引き起こす特徴があり、これまで主に消化器がんに対して制限増殖型ウイルス（レオウイルス）の抗腫瘍効果を研究してきた。一方、生体内での抗腫瘍効果、増殖安定性および有害事象の検討が課題であり、臨床応用に向けた研究開発を行っている。 ２）腸内細菌叢の病態解明により、宿主の腫瘍免疫や発がんそのものを制御する可能性についての研究を行う。 ３）ヘリコバクターピロリ菌に対しては抗菌薬耐性菌の出現が世界的にも喫緊の課題である。耐性菌を含めたピロリ菌の除菌を目的とした新しい光線療法を開発する。
三室　仁美 三好　智博 TEL: 097-586-5630 E-mail: mimuro@oita-u.ac.jp（三室） miyoshit@oita-u.ac.jp（三好）	研究分野：細菌感染生物学 研究テーマ：粘膜感染病原細菌の感染機構解明 キーワード：ピロリ菌、赤痢菌、口腔内細菌、消化管病原細菌、病原性発現機構、宿主応答、薬剤耐性、VBNC 研究内容： ピロリ菌や腸管病原性大腸菌などの消化管感染病原細菌に関し、感染から発症までの間に菌体因子と相互作用する宿主細胞群や宿主因子群の全容の解明に取り組んでいる。動物感染モデルとシングルセル解析設備、ゲノム解析を利用した、病原細菌感染の病態制御に関わる細胞群やncRNA、タンパク質、糖鎖、脂質等因子群の同定、および検査法・治療法開発を実施している。さらに、消化管粘膜感染病原細菌の薬剤耐性菌対策に関連研究、Viable but not culturable (VBNC)に関する研究、病原細菌のファージに関する研究、病原細菌の感染成立における常在細菌叢の役割を解明する研究を実施している。
河本　聡志	研究分野：ウイルス学、分子疫学 研究テーマ：ロタウイルス、下痢症ウイルス、新興・再興感染症

TEL: 097-586-5455 E-mail: satoshik@oita-u.ac.jp	キーワード：リバースジェネティクス、増殖・病原性発現機構、ワクチン・ベクター、次世代シーケンサー、ワンヘルス 研究内容： １）ロタウイルスのリバースジェネティクス系を用いた解析（増殖・病原性の基礎的研究、ワクチン・ベクター開発） ２）ウイルスの分子疫学（分子疫学研究による流行株の性状解析） ３）分子生物学的／ウイルス学的手法に基づく新興・再興感染症の研究
杉本　光繁 TEL: 097-586-5401 E-mail: sugimo@oita-u.ac.jp	研究分野：消化管感染症、酸関連疾患、臨床薬理学、 消化器内視鏡学 研究テーマ：①ヘリコバクターピロリ個別化除菌治療 ②non-Helicobacter pylori Helicobacter 関連研究 キーワード：薬剤耐性菌、NHPH、CYP2C19 遺伝子多型 研究内容： １）ヘリコバクターピロリ個別化除菌治療 除菌治療には薬剤耐性や薬剤の代謝酵素など種々の因子が関連しているため、関連因子を考慮した最適な個別化治療法の開発に取り組んでいる。 ２）non-Helicobacter pylori Helicobacter 関連研究 ヘリコバクターピロリ以外にも胃内に感染する細菌が知られるようになり、MALT リンパ腫への関与が示唆されている。感染診断法の確立を目指すとともに、日本のみならず諸外国での疫学研究も行っている。
後藤　孔郎 TEL: 097-586-5444 E-mail: gotokoro@oita-u.ac.jp	研究分野：神経内分泌学、分子生物学 研究テーマ： 腸内細菌叢の変化と疾患発症との関連 研究内容： １）腸内細菌から合成される lipopolysaccharide（LPS）が腸管内炎症を引き起こすことで腸管バリア機能が低下し、腸管内の LPS が腸管外に漏出することによって増加する血中の LPS が全身に炎症性変化をもたらす。このような炎症と様々な疾患の発症との関与について検討している。 ２）腸内細菌叢から合成される二次代謝産物と疾患発症・進展との

	関連について検討している。例えば、二次性代謝産物の１つである短鎖脂肪酸は、腸管内に作用して腸管バリア機能を改善させることが明らかになっている。このような二次性代謝産物と様々な疾患との関連のなかで、腸内細菌叢の重要性について検討している。
宮原　麗子 TEL: 097-586-6235 E-mail: rmiyahara@oita-u.ac.jp	研究分野：感染症疫学、国際保健、公衆衛生 研究テーマ： 感染症の感染伝播や重症化リスクに関する疫学研究 キーワード：感染症疫学、結核菌、SFTS （重症熱性血小板減少症候群）デング熱、新興再興感染症、感染伝播、分子疫学、公衆衛生 研究内容： １）　疫学・臨床情報に宿主および病原体の遺伝子情報を統合した結核患者・接触者のコホート研究を構築し、結核菌感染症の感染伝播および重症化リスクを明らかにする。 ２）　SFTS 感染･曝露ハイリスク者を対象とした血清疫学調査により、SFTS ウイルスへの感染状況および感染に関連するリスク因子を明らかにする。 ３）デング熱感染症診断がサーベイランスやワクチン評価に与える影響について明らかにする。 ４）海外における感染症サーベイランスの実態を調査する。
内田　宅郎 TEL: 097-586-6193 E-mail: tuchida@oita-u.ac.jp	研究分野： 肝臓学、ウイルス性肝炎 研究テーマ： 肝疾患の病態解明 キーワード：肝炎、肝細胞癌、HBV、HCV、非アルコール性脂肪性肝疾患、NAFLD、NASH、肝硬変 研究内容： 肝炎ウイルスの感染～肝炎、肝癌発生に関わるウイルス因子と宿主因子の解明を目指し、動物モデルや培養技術を利用して HBV 感染が肝細胞に与える影響の解析やゲノム編集を用いた肝疾患モデルの創出を行う。また、臨床データやサンプルを用いた研究と基礎研究の融合を図り、肝疾患の病態解明および治療アプローチの開発、バイオマーカーの探索を行う。
カーン　シャキル TEL: 097-586-5712	研究分野： ウイルス学、感染症疫学、神経感染症学 研究テーマ：新興・再興ウイルス感染症 （ラブドウイルス、フラビウイルス、新型コロナウイルス等） キーワード：分子疫学、ウイルス性脳炎、既存薬再開発、ワンヘルス

E-mail: sakirul@oita-u.ac.jp	研究内容： １）ラブドウイルス（狂犬病ウイルス・大分ウイルス 296/1972）の分子病態に関する研究 ２）SARS-CoV-2 感染患者におけるデング熱重症化メカニズムに関する基礎・臨床的研究 ３）ウイルス感染症に対する抗ウイルス薬/免疫調節物質を用いたドラック・リパーポージング法/治療法に関する前臨床・臨床的研究
平松　和史 TEL: 097-586-5406 E-mail: hiramats@oita-u.ac.jp	研究分野：感染症内科学、感染制御学、呼吸器感染症内科学 研究テーマ：緑膿菌感染症、薬剤耐性菌感染症 キーワード：薬剤耐性菌、緑膿菌、院内感染症、抗菌薬に依存しない感染症治療 研究内容： １）多剤耐性緑膿菌やカルバペネム耐性腸内細菌科細菌、バンコマイシン耐性腸球菌など各種薬剤耐性菌の耐性機序や薬剤耐性獲得機構を明らかにする研究を実施している。 ２）病院内での伝播経路や環境、動物などでの耐性菌の広がりを、分子生物学的技法を用いて検討している。 ３）薬剤耐性菌に対する新しい治療法、治療薬の開発や抗菌薬に依存しない感染症の治療法や予防法に関する検討を行っている。
上村　尚人 TEL: 097-586-5952 E-mail: uemura@oita-u.ac.jp	研究分野：臨床薬理学および薬物治療薬、臨床薬効評価、早期臨床開発 研究テーマ：感染症を含む難治性疾患の新規治療薬、ワクチンの研究開発 キーワード：ウイルス感染症、顧みられない熱帯病（NTDs）、トランスレーショナルサイエンス、ワクチン、抗ウイルス薬、非臨床試験、臨床開発 研究内容： １）新興・再興感染症、特に新型コロナウイルスやインフルエンザを含む病原性 RNA ウイルスに対して有効な抗ウイルス薬の非臨床・臨床開発研究を実施している。 ２）狂犬病をはじめとした、顧みられない熱帯病（neglected tropical diseases: NTDs）治療薬の非臨床・臨床開発研究を実施している。

松岡　茂 TEL: 097-586-5952 E-mail: s-matsuoka@oita-u.ac.jp	研究分野：創薬化学 研究テーマ： 新規低分子抗ウイルス薬の開発研究、画像認識 AI の医薬品分子設計への応用 キーワード：低分子、抗ウイルス薬、化合物ライブラリ、分子設計 研究内容： １）幅広いウイルス種に有効な新しい作用機序を持つ抗ウイルス薬の研究開発を実施している。 ２）新規画像解析法を応用した、生体高分子局所構造の低分子模倣や、低分子の骨格変換の技術開発研究を実施している。 ３）従来の低分子抗ウイルス薬（核酸誘導体など）とは異なる分子骨格を持つ独自の化合物ライブラリ分子を提供する。
緒方　正男 TEL: 097-586-6275 E-mail: mogata@oita-u.ac.jp	研究分野：血液内科学、造血幹細胞移植、ウイルス感染症 研究テーマ：免疫不全患者におけるウイルス感染症の解明とその制御法の確立 キーワード：HHV-6 感染メカニズムの解明、免疫不全関連ウイルス感染症の克服 研究内容： 同種造血幹細胞移植などに伴う免疫不全は多種多様なウイルス感染症などの発症に関連する。その早期診断は困難であり、治療薬の選択も限られている。免疫不全患者における種々のウイルス感染症やトキソプラズマ感染症の診断や治療法の開発に取り組んでいる。特にヒトヘルペスウイルス 6 による脳炎の病態、及び治療・予防法の確立に繋がる研究を実施している。
小林　隆志 神山　長慶 TEL: 097-586-5700 E-mail: kansen@oita-u.ac.jp	研究分野：免疫学、シグナル伝達、寄生虫学、ウイルス学 研究テーマ：炎症の免疫制御機構、アルボウイルス、寄生虫に対する免疫応答 キーワード：宿主免疫応答、病原性因子と病原性発現機構、遺伝子組換えマウス、実験用病原体 研究内容： 蚊媒介性ウイルス（ジカウイルス、チクングニアウイルス）、腸内細菌（Citorobacter rodentium）、寄生虫（トキソプラズマ、リーシュマニア、アニサキス）を中心とした病原性微生物への感染により誘導される宿主免疫応答に焦点を当て、疾患が引き起こされる発生機

	序の解明に取り組んでいる。特に、免疫応答に関する遺伝子の変異マウスを用いた生体レベルでの感染免疫応答の解析に加え、分子細胞レベルでの解析も行い宿主の免疫応答を総合的に理解する。一方、病原性を規定する微生物側の因子の同定を試みることで、微生物の感染から病態発症に至る機序の解明も進める。
一二三　恵美 TEL: 097-554-6003 E-mail: e-hifumi@oita-u.ac.jp	研究分野：生命科学、 生物工学、抗体工学 研究テーマ：新規医薬品開発を目指した抗体酵素研究 キーワード：抗体酵素、抗体鎖、抗ウイルス作用 研究内容： 近年の分子標的薬、中でも抗体医薬品の発展は目覚ましい。将来、抗体が酵素作用をもって抗原を分解できればさらなる高付加価値が生まれる。最近､抗体の超可変領域内に､ある変異を導入する事で抗体に酵素作用を持たせる新手法を見出した。この手法をベースにして、インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスの保存領域を標的として、感染能を消失させる抗体酵素の作製を進めている。これにより、ウイルスに変異が生じても適切に対応出来る新型医薬・予防薬の開発を行うと共に、本手法の更なる技術展開を図る。
小宮　幸作 TEL: 097-586-5804 E-mail: komiyakh1@oita-u.ac.jp	研究分野：呼吸器内科、呼吸器感染症 研究テーマ：抗酸菌感染症、抗菌薬適正使用 キーワード：肺結核及び非結核性抗酸菌症の病態・診断・治療、抗菌薬適正使用 研究内容： １）世界的にも肺結核に罹患する世代に変化がみられており、それらを鑑みた肺結核の病態、さらには新たな診断および治療に関する研究を実施している。 ２）非結核性抗酸菌症は近年増加傾向にあり、希少菌を含め感染拡大に関する機序は明らかにされていない。さらには、従来ヒトーヒト感染はしないとされていたものも、その可能性を示す報告が散見されている。非結核性抗酸菌感染における病態解明に関連する研究を実施している。
伊波　英克 TEL:	研究分野：分子疫学・分子腫瘍学 研究テーマ:HTLV-1/STLV の分子疫学調査(特にマレーシアを中心とする東南アジア)。成人 T 細胞白血病(ATL)の新規診療技術開発。 キーワード：HTLV-1/STLV-1 分子疫学的・分子進化学的解析。

097-586-5712 E-mail: hiha@oita-u.ac.jp	ATL 発症危険度、バイオマーカー、分子標的治療薬 研究内容： １）ヒト(HTLV-1)/霊長類(STLV)レトロウイルスの分子疫学調査。特に東南アジア島嶼域とオーストラリアに偏在する HTLV-1-C 亜種と類縁 STLV の疫学調査。 ２）ヒトレトロウイルス(HTLV-1)の感染で発症する難治性の血液腫瘍成人 T 細胞白血病 T 細胞白血病(ATL)の診療効果を改善する新規バイオマーカーの同定と分子標的薬を活用した診療技術開発。
内田　智久 TEL: 097-586-5195 E-mail: tomohisa@oita-u.ac.jp	研究分野：分子疫学 研究テーマ： ピロリ菌感染症 研究内容： アジアにおけるピロリ菌の分子疫学について、病理標本を用いた解析を行う。

＜主要な設備＞

詳細は本センターHPをご覧ください。(https://www.oita-glocal.jp/device/)

	機器名称	メーカー名	型番	主な用途	※利用料金 (学外者)
1	ライトシート蛍光顕微鏡	Zeiss	Lightsheet 7	生細胞イメージング、透明化処理した器官等のイメージング	1時間 5,000円
2	共焦点レーザー顕微鏡	Olympus	FV3000-L4H2-BD-3	生細胞・組織のイメージングやタイムラプスイメージング	1時間 5,000円
3	リアルタイムPCRシステム	Roche Diagnostics	LightCycler 96	PCRでのDNA増幅量をリアルタイムでモニターして解析	1ラン 1,000円
4	次世代シーケンサー(Long Read)	Oxford Nanopore Technologies	GridION X5	1度に最大5検体までラン可能、塩基配列精度の高いロングリード	1時間1,600円 (利用時間が連続12時間未満の場合) 1回19,000円 (利用時間が連続12時間以上48時間以内の場合)
5	次世代シーケンサー(Short Read)	Illumina	iSeq 100	ショートリード長のシーケンス	1ラン 5,000円
6	シングルセル解析装置	10x Genomics	Chromium iX	数百～数万個の細胞のシングルセルトランスクリプトーム解析	1検体 9,500円
7	デジタルPCRシステム	Thermo Fisher Scientific	QuantStudio Absolute Q	ネガティブウェルの反応の割合を測定し絶対数を定量	1ラン 2,500円
8	生体分子間相互作用解析システム	Sartorius	Octet RED96e Systems	96well plateでのカイネティクス解析、定量、アフィニティ解析	1時間 2,000円
9	全自動キャピラリー泳動装置	QIAGEN	QIAxcel Advanced System	全自動マルチキャピラリーDNA/RNA電気泳動装置	1ラン 1,500円
10	蛍光プレートリーダー	PerkinElmer	Nivo Alpha S	Alpha測定、吸光測定、蛍光測定、発光測定	1時間 1,000円

※グローカル感染症研究センターの構成員が実施するセンターの研究（本公募による共同研究を含む）に利用する場合は、利用料金の半分が免除されます。

＜主に取扱いができる病原体＞

細　　菌：ピロリ菌、赤痢菌、(結核菌)

ウイルス：狂犬病ウイルス、SFTS ウイルス、ロタウイルス、レオウイルス、B 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、D 型肝炎ウイルス、蚊媒介性ウイルス（デングウイルス、ジカウイルス、チクングニアウイルス）

寄 生 虫：トキソプラズマ、リーシュマニア

（別紙 1）

大分大学グローカル感染症研究センター共同研究費の取扱いについて

１．所要経費の取扱い

（１）本共同研究費は、本センターまでの旅費や、当該研究課題に使用する消耗品の購入等に充てる費用となります。

（２）共同研究に必要な経費は、予算の範囲内において本センターから支出します。

２．支出できる範囲

■旅費

（１）共同研究推進のため、共同利用・共同研究を目的とした本センターへの出張を１回以上計画してください。

（２）本共同研究の成果を学会で発表する際の旅費の計上は可能です。（単なる学会参加の旅費は計上できません。）

（３）研究代表者、研究分担者以外の旅費を支出することはできません。

（４）本センター担当教員の旅費を支出することはできません。

（５）旅費は、国立大学法人大分大学旅費規程に基づき算出し、精算払（銀行振込）を原則とします。

（６）本センターへの出張は、研究代表者及び研究分担者の勤務先所在地（または居住地のいずれか近いほう）から本センターへの移動に係る交通費が支給対象となります。

■研究費

（１）消耗品

消耗品とは、本センターとの共同研究に直接使用するもので、単価 10 万円未満の物品が該当します。単価 10 万円以上の物品であっても、当該共同研究を遂行するために必要不可欠なソフトウェアや、およそ１年以内に消耗する物品（試薬等）については消耗品に該当します。ただし、以下の(a)～(d)に掲げるものは除きます。

(a)　各所属機関で整備すべき設備・備品（事務机、椅子、本棚、実験台等）

(b)　汎用的な事務機器（パソコン、プリンター等）

(c)　金券、タブレット端末、デジタルカメラ等の換金性の高い物品

(d)　書籍

（２）印刷費

共同研究によるサポートを受けた旨を明記したものに限り、別刷代・投稿料も可能です。（年度内に納品できるものに限ります。）

（３）役務費

英文校正費用、受託解析費用、郵送料、学会参加費（本研究の成果を発表する場合に限る）が対象となります。

３．　検収権限の委託について

本共同研究費で購入する物品等を申請者の所属機関に直接納品するため、本学の規程に定める「検収権限の委託の手続」が必要となります。※別紙 2（共同研究費執行手続きの流れ）を確認してください。検収権限の委託に関して、本学の経理担当者から手続に関する連絡を行いますので、（経理様式 1）により貴機関の検収担当部局をお知らせいただくようお願いします。

なお、貴機関の検収体制の確認の結果、検収権限の委託ができない場合は、その旨御連絡します。

採択後、速やかな研究開始・経費執行を行うため、申請者所属機関の検収体制の事前の確認をお願いします。

４．　研究費執行の流れ

本共同研究経費については、申請者所属機関への予算配分（配分先機関で予算執行すること）を想定していません。そのため、以下の流れで執行してもらうこととなります。 ※別紙２（共同研究費執行手続の流れ）も併せて確認してください。

例）消耗品の購入

１）購入予定物品の物品購入等申請書（経理様式２）と見積書を、グローカル感染症研究センターにお送りください。購入にあたっては、納品までに時間がかかる場合もありますので、日程に余裕をもって連絡してください。

（送付先メールアドレス：glocal@oita-u.ac.jp）

２）本学調達課用度グループから業者に発注を行います。

３）指定の場所に納品がありましたら、各機関で定める手続に沿って、検収をお願いします。なお、各機関での検収に当たっては、あらかじめ手続（検収権限の委託）を経ておく必要があります。

※委託の手続きが完了するまでは各機関に納品する物品等の発注はできません。

４）研究者又は納入業者から本学調達課用度グループに、見積書・納品書・請求書の原本を郵送にて送付してください。

※納入業者を介さず、宅配便等で直接研究者に納品される場合は、納品後、研究者が研究機関による検収印の押印と受領者の押印を確認し、見積書・納品書（検収印を押印したもの）・請求書の原本の３点を本学調達課用度グループに、郵送にて送付してください。

５）本学から納入業者に支払を行います。（納入月の翌月払）

※原則として、令和10年（2028年）２月末日までに経費執行してください。

【見積書・納品書・請求書の提出先】
〒879-5593　大分県由布市挾間町医大ケ丘１丁目１番地
大分大学財務部調達課用度グループ

（別紙2）

【大分大学グローカル感染症研究センター共同研究費　執行手続の流れ】

物品発注の流れ

（パターン1）	（パターン2）
大分大学経理担当部局を通じ、研究代表者所属機関に検収権限委託の手続	「海外の研究機関」や「組織的な検収体制が整備されていない機関」の場合
⇩	⇩
購入希望物品等の見積書（※宛名は国立大学法人大分大学とする）と（経理様式2）物品購入申請書を[グローカル感染症研究センター共同利用・共同研究係]へメールで提出（注1）	購入希望物品等の見積書（※宛名は国立大学法人大分大学とする）と（経理様式2）物品購入申請書を[グローカル感染症研究センター共同利用・共同研究係]へメールで提出
⇩	⇩
大分大学が業者へ発注	大分大学が業者へ発注
⇩	⇩
研究代表者所属機関に納品・検収	大分大学に納品・検収
⇩	⇩
研究者または納入業者から大分大学調達課用度グループに見積書・請求書・納品書の原本を送付	大分大学が研究代表者の所属機関へ物品を郵送

注1）（経理様式2）物品購入依頼書を見積書とともに**<u>納品希望日の7営業日前</u>**までに提出してください。

※納入業者を介さず、宅配便等で直接研究者に納品される場合は、納品後、研究者が研究機関による検収印の押印と受領者の押印を確認し、大分大学財務部調達課用度グループへ①見積書、②納品書（検収印を押印したもの）、③請求書の原本の3点を郵送にてお送りください。

※円滑な研究実施のために、検収権限委託手続への御協力をお願いいたします。

（別紙3）

出張手続の流れ

（経理様式3）出張旅費申請書及び宿泊の予約明細等（食事の有無等が分かるもの）を
〔グローカル感染症研究センター 共同利用・共同研究係〕へメールで提出

↓

大分大学で旅行依頼書を作成

↓

研究代表者等が出張

↓

出張の際、出張者は旅費の支払に必要な書類を大分大学に提出

↓

大分大学が出張者に旅費支払（口座振込）

【メール送付先：glocal@oita-u.ac.jp】

【出張前】
①（経理様式3）出張旅費申請書及び宿泊の予約明細等（食事の有無等が分かるもの）を、
出発日の7営業日前までに、グローカル感染症研究センター共同利用・共同研究係へ提出してください。

【出張当日】
②旅費精算のため、下記書類等を提出してください。
1）航空機利用の場合（パック旅行を含む）、航空機に搭乗したことが証明できるもの
（搭乗券、半券、保安検査場通過の際に発行されるレシート状のもの、航空会社が発行する
搭乗証明書のいずれか1つ。オンラインチェックインの場合、モバイル搭乗券の写し（紙媒体）も可）
2）領収書または支払を証明する資料
※宿泊費は、上限額ありの実費支給方式です。宿泊に係る領収書（金額と内訳が確認できるもの）を
提出してください。
※交通費は、鉄道、高速バス及び船舶を利用する場合も実費支給です。領収書（金額と路程が確認できるもの）を提出してください。領収書に路程が記載されていない場合は、追加資料として乗車券、特急券の写し、予約完了メールや申込画面のスクリーンショットのいずれかを提出してください。（路程のすべてが九州内で完了するものについては鉄道及び高速バスの領収書は不要です。）
3）口座振込依頼書（押印済の本紙）

③本学作成の旅行依頼書に、印鑑又はサインをお願いいたします。

.